

懇 親 会 : 4,000 円

近年、ゲノム編集の技術は急速に発展し、病気の治療や診断はもとより、農作物の品種改良等、我々の生活に大きな影響をもたらす技術として注目され、実用化に向けた取組みが加速している。

その契機となったのは、ゲノム編集技術の中で第三世代とされる「クリスパー・キャス・ナイン (CRISPER-Cas9)」の登場といえる。従来のゲノム編集手法と比べ特定の DNA を狙った操作が可能であり、簡便かつ効率的に目的遺伝子を改変できるようになった。

しかし、その利用・応用への期待が大きくなるに連れ、生命や健康、自然環境への影響、食の安全等への配慮、生命倫理をめぐる議論も活発となり、内閣府が本年6月にまとめた「統合インベーション戦略」でも法制度上の取扱いが要請されている。

本シンポジウムでは、ゲノム編集分野の最前線で活躍されている専門家をお招きし、ゲノム編集技術の最新の研究開発状況や実用化に向けた展望、知財を巡る課題や倫理的社会的課題を紹介いただく。これにより、ゲノム編集技術の研究開発に取り組む、または興味を持つ、大学、研究期間、企業、政府機関にとって有益な情報収集の場とする。

13:00-13:05 開会挨拶

東京医科歯科大学 理事・副学長(産学官連携・研究担当) 渡辺 守

13:05-13:15 来賓挨拶

文部科学省科学技術・学術政策局産学連携地域支援課長 西條 正明

13:15-13:25 趣旨説明

産学連携学会長(静岡大学 理事) 木村 雅和

13:25-14:10 講演 1

「立体構造に基づく Cas タンパク質エンジニアリングと医療応用を目指したゲノム編集ツールの開発」

東京大学 大学院理学系研究科 生物科学専攻 教授 濡木 理

14:10-14:45 講演 2

「遺伝子改変技術を用いた遺伝子細胞治療の現状と今後の展望」

国立研究開発法人国立成育医療研究センター

成育遺伝研究部 部長 小野寺 雅史

14:45-15:00 休憩 1

15:00-15:35 講演 3

「PPR 蛋白質を利用した DNA/RNA 編集技術の開発」

九州大学大学院農学研究院 准教授・エディットフォース株式会社代表取締役

中村 崇裕

15:35-16:10 講演 4

「ゲノム編集技術の社会実装に向けた知財戦略 –内閣府 SIP プロジェクトの試み–」

内閣府 SIP ゲノム編集プロジェクト 知財戦略担当・

(業) セントクレスト国際特許事務所 弁理士 橋本 一憲

16:10-16:55 講演 5

「遺伝子改変技術の農業と医療への応用：倫理的、社会的課題」

北海道大学 安全衛生本部 教授 石井 哲也

16:55-17:10 休憩 2

17:10-17:35 講演 6

「起業支援の現場から見たゲノム編集技術への期待」

バイオ・サイト・キャピタル株式会社 専務取締役

JST START 事業プロモーター 福田 伸生

総合司会：産学連携学会副会長 飯田香緒里（東京医科歯科大学 教授）

●申し込み方法：

下記サイトからお申し込みください。

URL：<https://kokucheese.com/event/index/542726/>

※上記 URL からの申し込みができない方は、

下記ご記入の上、FAX または E-mail (j-sangaku@j-sip.org)

にてご送付下さい。

○御氏名（ふりがな）

○所属

○役職

○ご連絡先（TEL、E-mail）

○シンポジウム 参加・不参加

○意見交換会 参加・不参加

○会員・非会員の区分

申し込み日限：平成 30 年 12 月 14 日（金）

●お問い合わせ

産学連携学会本部事務局（担当：箕輪・須藤）

TEL：080-4203-5165 FAX：042-490-5727 E-mail：j-sangaku@j-sip.org

以上